

租税教育実践レポート

私たちの願いを実現する政治—税金の働きを調べる—

登米市立南方小学校教諭 6学年 佐藤 光史

実施年月日：令和3年6月16日 33名

1 実践計画・指導のねらい

市民の願いを実現するために税金が重要な役割を果たしていることについて、資料を活用して、必要な情報を集めて考えさせる。
公共施設の建設や運営にお金がかかっているにもかかわらず、利用料金が無料になっていることに着目し、その理由を考えていく中で、税金の種類や納付先、使われ方の理解を深めさせる。

具体的な金額を意識しながら学習を進めることで、より現実的な学習としてとらえさせる。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・前時の学習を振り返る。	○ あすばる（児童センター）ができるまでのプロセスや、その中で市議会が果たした役割について確認しましょう。
2	・本時の課題を確認する。	○ あすばるの利用料金が無料なのはなぜだろう。
3	・課題解決のための情報を集める。	○ あすばるにかかわるお金の額を調べよう。 <支出> ・建設費用 1億4,000万円 ・維持・運営費 2,000万円 合 計 1億6,000万円 <収入> ・利用料金 無料 ○ 足りない費用はどこから出ているのでしょうか。 ● 税金、市が払っている。 □ 教科書
4	・本時の課題に迫る。	○ あすばるの利用料金が無料なのはなぜだろう。 ● 市内に住んでいる人が払った税金が使われているので、利用料金を払っているのと同じだから。
5	・税金の種類を調べる。	○ 税金はどのように集められ、使われているか調べよう。 ● 以下、生徒から発表された意見 <種類> ものを買ったとき（消費税）、市町村に住んでいる人（住民税）、収入の中から（所得税）、土地や建物に対して（固定資産税） <目的> 救急、消防、警察、教育、保健、福祉、衛生、土木 ⇒公共的な事業
6	・身近な税について知る。	○ みなさんにはどれだけの税金が使われているか計算してみよう。 小学生1人 1年間 885,000円 6年間 5,310,000円 ○ 学級33人で6年間に1億7千万円以上使われてきたことになります。 □ くらしと税金
7	・次時の課題を知る。	○ 国の政治と地方公共団体の政治、私たちの生活や願いはどのように関わっているのだろうか。

【指導のポイント】≪2時間目≫

あすばるの建設と運営に係る費用を確認させる。

【指導のポイント】≪3時間目≫

あすばるの建設と運営に係る費用を確認した上で、利用料金が無料であることに着目し、税金の働きを考える視点とする。
教科書を使って、建設や維持・運営にかかる費用を調べるよう指示する。
前時までの学習を通して、あすばるを利用する場合に、自分なら対価としていくら支払うのが妥当か考えさせる。仮に200円だとして、維持・運営費だけでも利用料金でまかなうためには年間10万人の利用が必要であることを確かめさせる。

【指導のポイント】≪4時間目≫

これまで集めた情報を基に推論してノートに自分の考えをまとめ、それを基にグループで学び合いをさせる。
最終的にはグループで一つの考えにまとめさせる。
用語「税金」と、公共的な役割に活用されるという目的を確認させる。

【指導のポイント】≪5時間目≫

教科書や資料集、「くらしと税金」を活用して税金の種類と集められ方使われ方を調べるよう指示する。
消費税という形で、子供でも（間接的に）納税していることを確かめる。
公共的な事業に使われるという税金の機能や納税の義務があることにも触れる。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

◎「自分にどれだけの税金が使われているか」とは、児童にとっては思いもよらないことだったのではないだろうか。具体的な金額に触れて考えることで、税金がより身近なものとして意識できたと思う。資料「くらしと税金」の内容が効果的だった。

◆児童は、前時までの学習や予備知識から、税（お金）があることと公共の事業に使われていることはある程度知っているが、多様な種類や目的があることまでは知らない。「もし税金がなかったら」と逆説的にシミュレーションしてみても効果的だったのではないだろうか。